

下呂市 全地区

令和5年度

【地域の概要】

- 稲作を主体に夏の冷涼な気候を活かしたトマト、ほうれん草、花き等の施設園芸、「飛騨牛」を中心とした畜産業を基幹としており、担い手への農地集積率は作業受託を含め40%を達成し、令和5年度までに45名が新規就農した。
- 典型的な中山間地であり、農業不利地であることから、今後の大規模な土地改良事業及び、農地集積の実施は難しい事が予想される。
- 新規就農者についても、日本全体の慢性的な人材不足に加え、農業資材、肥料価格の高騰により、就農に対する関心は減少傾向。

①取組開始前の状況や課題

課題・状況

○担い手不足等により、市内の全農地のこれまでのような維持管理は困難と考え、これまで以上に農地の取捨選択を迫られると同時に、農業者だけでなく地域住民と協働した地域づくりが不可欠。これらの課題解決に向けた契機として「地域計画」の策定に取り組む。

○地域ごとの現状や課題、将来像を皆で共有することが大切だが、「人・農地プラン」の範囲設定では地域の特色が反映されにくい。

【人・農地プラン】 11地区

羽根地区、萩原地区、小坂地区、下呂地区、竹原地区、上原地区、中原地区、金山・下原地区、東地区、馬瀬地区

【地域計画】 15地区

萩原地区を萩原地区、川西北部（尾崎・山之口）、宮田3区（宮田・大ヶ洞・奥田洞）、四美地区、川西南部（古関、跡津、西上田）に細分化

➡ 地域の実情に沿った話し合いが出来るように!!!

②取組内容

連携会議

○令和5年9月～
下呂市、下呂市農業委員会、岐阜県、JA等の核メンバーによる事前協議を開始。

⇒参加メンバー、計画の範囲、話し合いの範囲を設定。

○令和6年1月～2月
委員・中心経営体を集め、15地区で協議を開始。「地域計画」の必須記載事項だけでなく、地域ならではの取り組みについても話し合われた。

地域住民への周知

○令和6年3月
各地域、集落営農組織の総会に参加。「地域計画」に取り組む目的や意義について説明を行った。

○令和6年4月
「農業委員会だより」にて市民に「地域計画」策定に向けた進捗状況を報告。

③今後の展開と方向性

協議の場の開催 令和6年5月～

○3回目の協議を開始予定。以降は各地区が中心となり協議の場を開催。

地域計画策定

○令和6年6月～7月
羽根地区、菅田地区の「地域計画」策定。

○令和6年12月
川西北部の「地域計画」策定。
地域集積を実施

○～令和7年3月末
市内全域の「地域計画」策定。



協議の場の様子（金山・下原地区）